



ブンムル隊（農楽隊）のサムルノリ大合奏



立教大学名誉教授山田昭次先生の講演「3.1独立運動80周年を迎えて、日本人として歴史にどう向きあうのか？」

# 十周年の「三・一文化祭」

「三・一文化祭」実行委員会 李 幸宏（イ・ヘンゲン）

今年1999年は、1919年3月1日に三・一独立運動が起こって80周年。三・一文化祭も今年で10回目となった。昨年は一日目のイベントを行わず日曜の一日だけの開催であったが、今年は10周年ということもあり、一日目は題名もずばり「三・一独立運動80周年を迎えて～日本人として歴史にどう向き合うのか」と題して、立教大学名誉教授の山田昭次先生に講演していただいた。国家利害ではなく普遍性を求める日本人が三・一独立運動に共感し得たのか、との具体的指摘は新鮮で、また三・一から関東大震災時の大虐殺へと続く流れを朝鮮人(韓国人)の闘いと組織の広がりとその後の日本支配層の恐怖という視点から分かりやすく話していただいた。

二日目はいつものように一転して民族文化三昧の一日。ブンムル隊がにぎやかに入場すると会場から大きな拍手。早速のノリ・マダン(遊びの広場)に子どもたちの歓声があちこちに上がる。今年の目玉は伝統文化研究会「オルス」(韓国・光州)のサムルノリ(四物遊戯)公演であった。四年前に特別出演してもらったのを覚えていた人も多かったのだろう、オルスの公演時間になると、会場は特に人でいっぱいとなった。すさまじいばかりにエネルギッ

シュなサムルノリの演奏、キンサンモ(紐のついた帽子)のはためく妙技に会場から感嘆の声があがる。子どもたちや会場参加者もノレチャラン(のど自慢)やパルピョ(発表)マダンで日頃の練習の成果を披露。最後は大ブンムルとカンガンスルレで一体感を感じ、今年の実行委員長金の逸根(キム・イルゲン)さんの挨拶で99年の三・一を終えた。ブックフェアや食文化コーナー、

チマチョゴリ試着コーナーも開かれ、それぞれなりの楽しみ方も出来たのではないかと思う。

全国では20以上の市民の手作りマダンが行われているが、ここ九州では、三・一文化祭のみ。そろそろいろんな地域でそれぞれのマダンが開かれればと願っている。



韓国の伝統文化研究会「オルス」の熱演